

2020年度南山大学大学院 法務研究科 法務専攻

＜専門職学位課程＞ 入学試験 C日程

(2020年2月22日実施)

試験科目：法律科目試験（刑法）

配点：100点

以下の問題文を読んで、具体的事実を摘示しながら、X、Yの罪責を論じなさい。なお、特別法違反の点について検討する必要はない。

1. Xは高級雑貨店甲社の専務取締役銀座店店長として、商品の管理・買付、銀座店の従業員の管理等の実務を担っていた。甲社は都内に数件の店舗を所有しているが、銀座店が最大の店舗であり、銀座店の売り上げは甲社の売り上げのうち6割を占めていた。甲社は創業家出身のVが代表取締役を務めており、XはVの甥であり、子供のないVの後継者として期待されていた。
 2. Xは甲社名義の小切手を自由に振り出す権限を有しており、振出に必要な銀行届出印、会社ゴム印、小切手帳等を管理しており、小切手振出状況については、事後的にVに報告する運用がなされていた。
 3. Xは銀座のクラブに勤めるYとかなり親密な関係をもっていたが、Yは反社会的勢力とつながりのある弟Bとの関係に悩み、Xに相談を持ちかけていた。
 4. 多額の借金を背負っているBは、借金の返済のために、Yに頻繁に金の無心をするようになった。Bは、Yに「1億円ないと東京湾に沈められるかもしれないから、何とかしてくれ。Xと親しいお前から、Xに借金を申し込んでくれ。」と懇願された。
 5. Yは、Xに対して事情を話して1億円の融資を依頼した。その際に、Yは、Xが会社の資金を自由にできる立場にあることを知っていたので、会社の資金を融通してもらえれば助かるという希望も伝えた。Xは、5000万円なら直ぐに融資できるが、後の5000万円については少し待ってほしいと伝えた。
 6. Xは、Yの依頼を受けて、会社の資金を一時的に利用することを考えた。そこで、甲社のための商品買い付けの名目で、V名義で5000万円の小切手を振り出し、自分の用意した5000万の現金と共にYに手渡した。
 7. Bは、Yが1億円の金策をしているうちに、殺害されたため、Yは1億円をXに返却することなく、自己名義の銀行口座に入金した。
-

2020年度南山大学大学院 法務研究科 法務専攻

＜専門職学位課程＞ 入学試験 C日程

(2020年2月22日実施)

試験科目：法律科目試験（憲法）

配点：100点

以下の文章(フィクション)を読み、【設問】に答えなさい。

Aは、知名度の高いいわゆる社会派のフリー・ジャーナリストであり、複数の雑誌に記事を掲載してきたが、記事はいずれも評判がよかった。Aは、オリンピックに関する取材を行う中で、オリンピック誘致に関わった政治家Bの不正疑惑についての記事をC社発行の雑誌に発表したところ、Bは、同記事は事実無根であり名誉毀損であることを理由に、A、C社に対して名誉回復のための措置として謝罪広告の掲載を求める訴えを提起した。結果、A、C社は敗訴し、裁判所から「記事は真実に相違しており、Bの名誉を傷つけ御迷惑をおかけいたしましたことを陳謝します。」との文面の謝罪広告を新聞紙上に掲載するよう命じられた(民法723条)。これに対して、A、C社は、同記事の内容は真実であると確信しており、それにもかかわらずその意に反して、裁判所が謝罪広告の掲載を命じることは違憲であると主張し、争うことにした。

【設問】 A、C社は、裁判所による上記謝罪広告掲載の命令の違憲性をどのように主張するかを述べた上で、それについてのあなたの考えを述べなさい。

2020年度南山大学大学院 法務研究科 法務専攻

＜専門職学位課程＞ 入学試験 C日程

(2020年2月22日実施)

試験科目：法律科目試験（商法）

配点：100点

次の文章を読んで、下記の【設問】に答えなさい。

甲株式会社（取締役会設置会社・監査役設置会社）は、新たに事業を展開するため、乙社から工場用地の購入（以下、本件取引とする。）を検討している。当該土地の価格は、甲社の資産の半分に相当する。甲社の代表取締役はA、代表権のない取締役はB・Cであり、Bは選定業務執行取締役であり、Cは社外取締役である。このほか、監査役Dと契約交渉担当の従業員Eがいる。

【設問1】甲社が乙社と本件取引を行う場合、どのようにして決定をしなければならないか述べよ。

【設問2】甲社が乙社と本件取引について契約する場合、誰が契約を行うことができ、誰が契約をすることができないか、理由を付して述べよ。

【設問3】甲社が乙社と本件契約をする場合、誰が必要書類等の準備を行うことができるかについて理由を付して述べよ。

【設問4】【設問1】の手続きがなく、Aが乙社と売買契約を締結した場合、甲社は乙社に対してどのような主張ができるかについて、乙社の主観的事情を踏まえながら述べよ。

2020年度南山大学大学院 法務研究科 法務専攻

＜専門職学位課程＞ 入学試験 C日程

(2020年2月22日実施)

試験科目：法律科目試験（民法）

配点：200点

次のⅠおよびⅡに解答しなさい。なお、設問には平成29年の民法（債権関係）改正後の法律に基づいて解答しなさい。

Ⅰ 以下の文章を読んで、設問（1）および（2）に答えなさい（なお、各設問はそれぞれ独立している）。

Xは、Cから土地（以下、甲とする）を購入した。その際に、甲の移転登記手続について、不動産に詳しい甥のAにその登記申請を依頼した。このころ、Aが営んでいたB会社の経営が悪化していた。そこで、Aは、甲を売却して、売却代金を着服し、Bの当面の運転資金にすることにした。Aは、登記手続に必要であると称して、Xから実印や印鑑証明等の交付を受けた。そして、これらを使用して、Xから登記申請の権限しか与えられていないにもかかわらず、Xを代理してYに対して甲を売却し、登記も移転した。

設問（1）YはAには甲を売却する代理権があると信じており、そう信じることに過失もなかった。XはYに対して甲の登記を戻すよう求めることができるか。

設問（2）YはAには甲を売却する代理権がないことに気づいており、そのうえで、甲を事情を知らないZに売却し、Xが気付かないうちにすぐさま登記も移転した。XはZに対して甲の登記を戻すよう求めることができるか。

Ⅱ 以下の文章を読んで、設問に答えなさい。

A（11歳）が、放課後、通学していた学校の校庭に設置されていたサッカーゴール（ゴールにはゴールネットが張られている）に向けてフリーキックの練習をしていた際、ボールがゴール後方約10mに位置する南門（この付近にはネットフェンスが張られていた）の門扉の上を越えて道路（以下、本件道路という）に転がり出た。小学校南門とその両脇のフェンス（高さ約1.2m～1.3m）の外側には幅約1.8mの側溝があったが、Aの蹴ったボールは、南門の前かけられた橋（幅約3m）の上を転がり、本件道路上に出たのである。折から自動二輪車を運転して本件道路を進行してきたXは、そのボールを避けようとして転倒し、右脛骨を骨折した。そのため、Xは、3か月間入院し、100万円の医療費を支払うことを余儀なくされた。

（設問）この場合に、XはAの親権者であるYに対して、損害賠償を請求することができるか、について論じなさい。